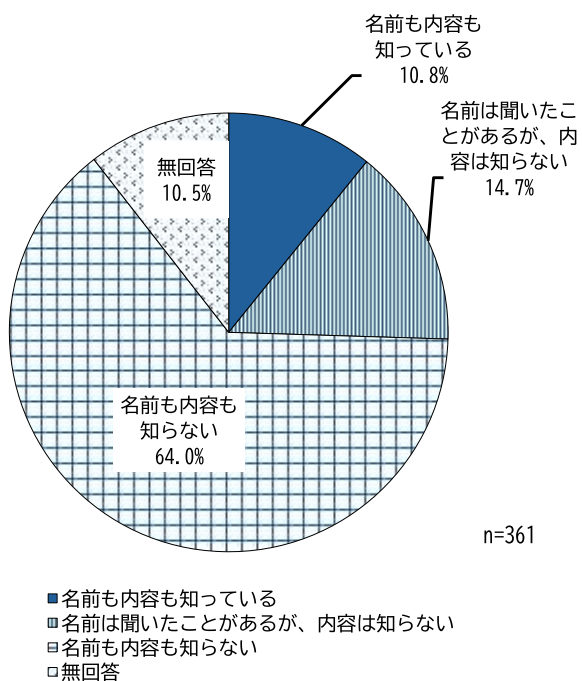


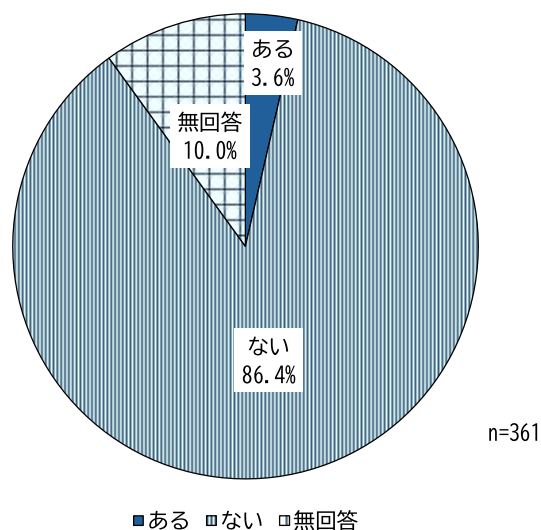
問 50 あなたは、「障害者虐待防止法(障害者虐待の防止、障害者の養護者に対する支援等に関する法律)」を知っていますか。(○は1つのみ)

「名前も内容も知っている」が10.8%、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」が14.7%、「名前も内容も知らない」が64.0%となっています。



問 51 あなたは、直近の3年間で、虐待を受けたり、見たり聞いたりしたことはありますか。(○は1つのみ)

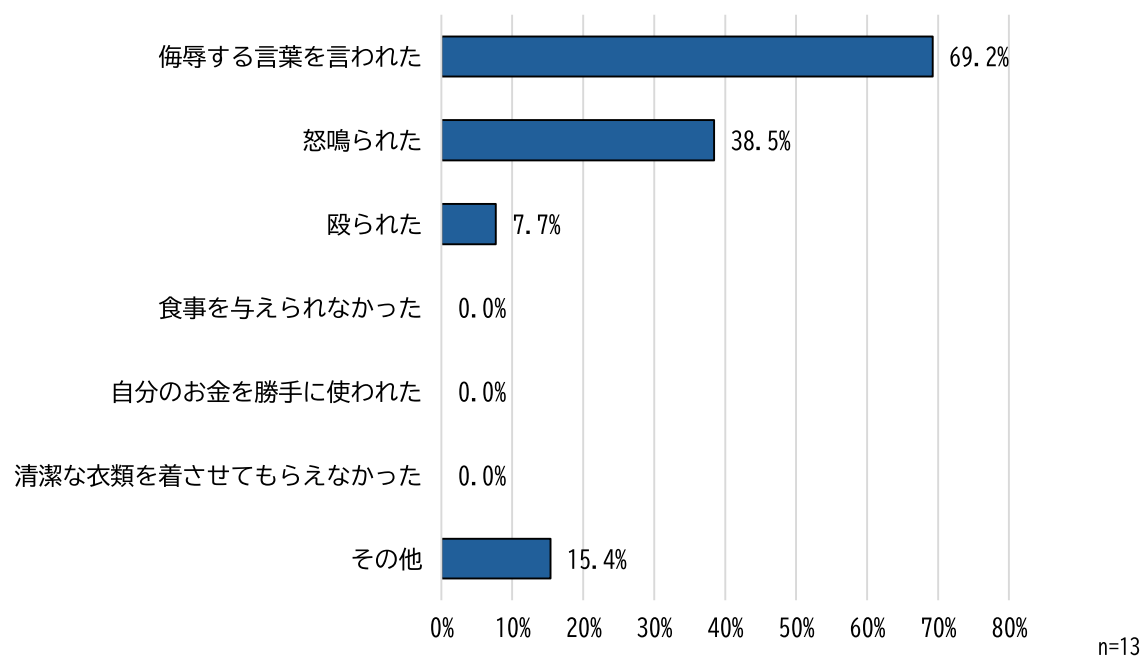
「ある」が3.6%、「ない」が86.4%となっています。



問 51-1 問 51 で「ある」を選んだ方のみお答えください。

どのようなこと(内容)でしたか。(あてはまるものすべてに○)

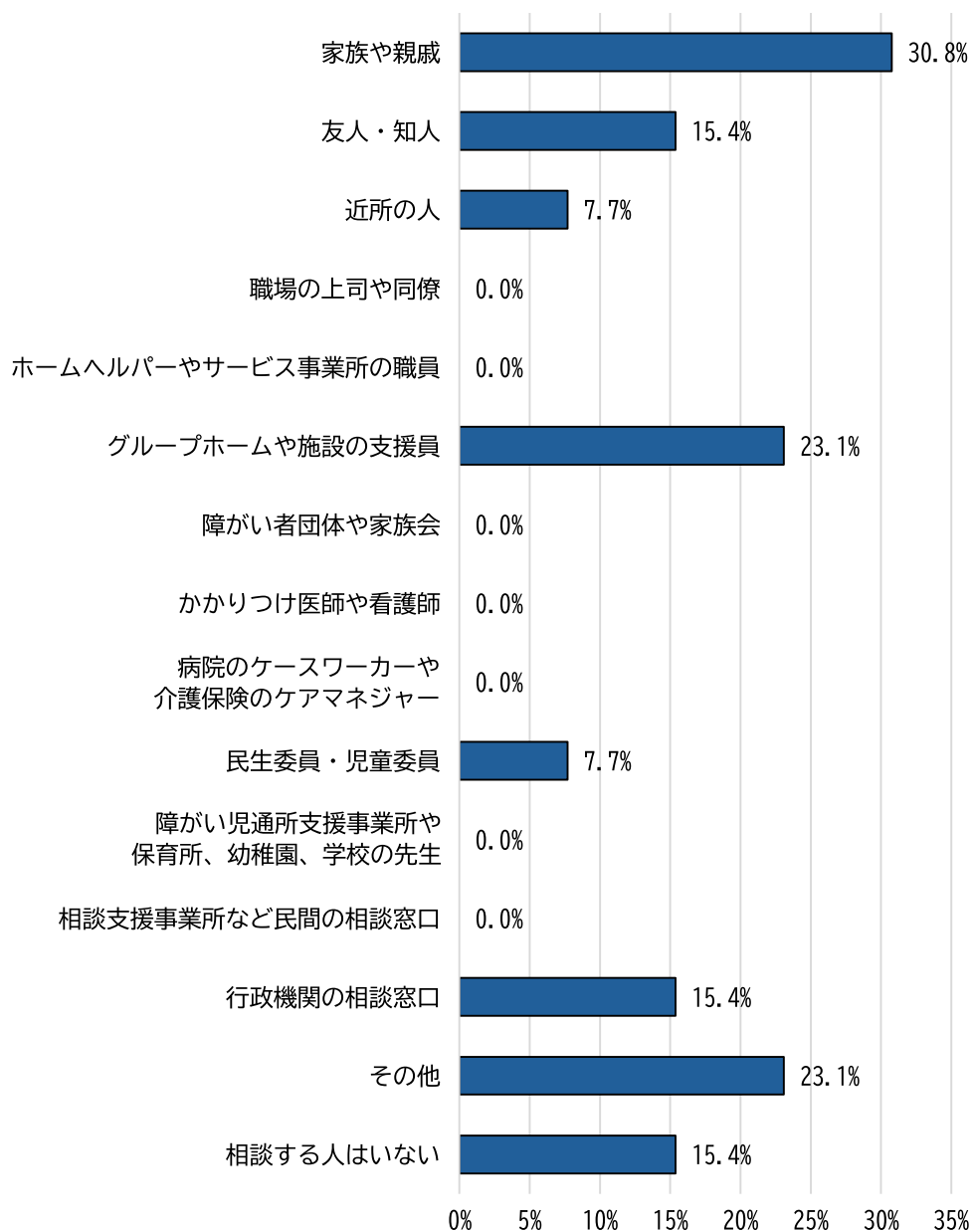
「侮辱する言葉を言われた」が 69.2%でもっとも多く、次いで「怒鳴られた」が 38.5%、「殴られた」が 7.7%の順となっています。



問 51-2 問 51 で「ある」を選んだ方のみお答えください。

そのことを誰か(どこか)に相談しましたか。(あてはまるものすべてに○)

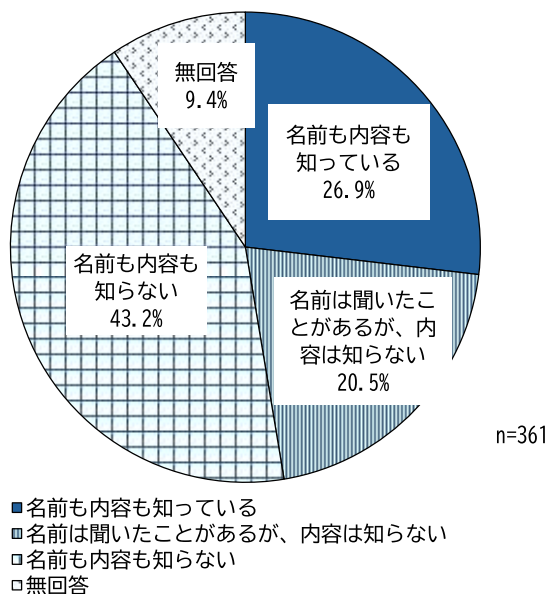
「家族や親戚」が 30.8%でもっとも多く、次いで「グループホームや施設の支援員」が 23.1%、「友人・知人」「行政機関の相談窓口」が共に 15.4%の順になっています。



n=13

問 52 あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。(○は1つのみ)

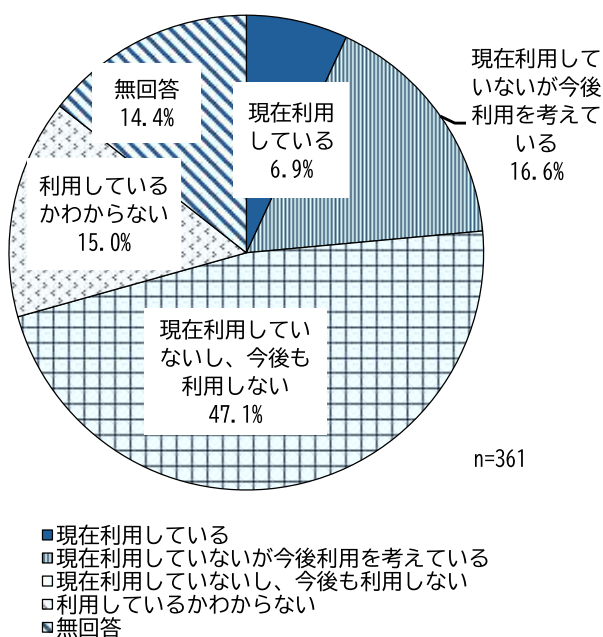
「名前も内容も知っている」が 26.9%、「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」は 20.5%、「名前も内容も知らない」が 43.2%となっています。



問 53 現在「成年後見制度」を利用していますか。(○は1つのみ)

「現在利用している」が 6.9%、「現在利用していないが今後利用を考えている」が 16.6%に対し、「現在利用していないし、今後も利用しない」が 47.1%となっています。

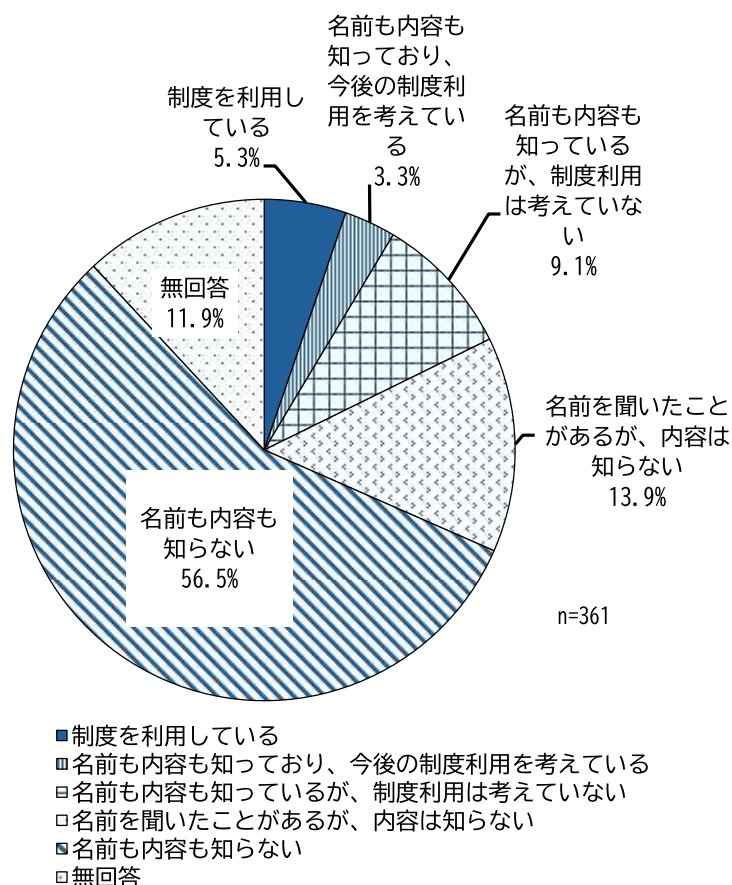
「利用しているかわからない」が 15.0%となっています。



問 54 福祉サービス利用援助事業(日常生活自立支援事業)について知っていますか。(○は1つのみ)

「制度を利用している」は 5.3%で、「名前も内容も知っており、今後の制度利用を考えている」が 3.3%、「名前も内容も知っているが、制度利用は考えていない」が 9.1%となっています。

「名前は聞いたことがあるが内容は知らない」は 13.9%、「名前も内容も知らない」は 56.5%となっています。



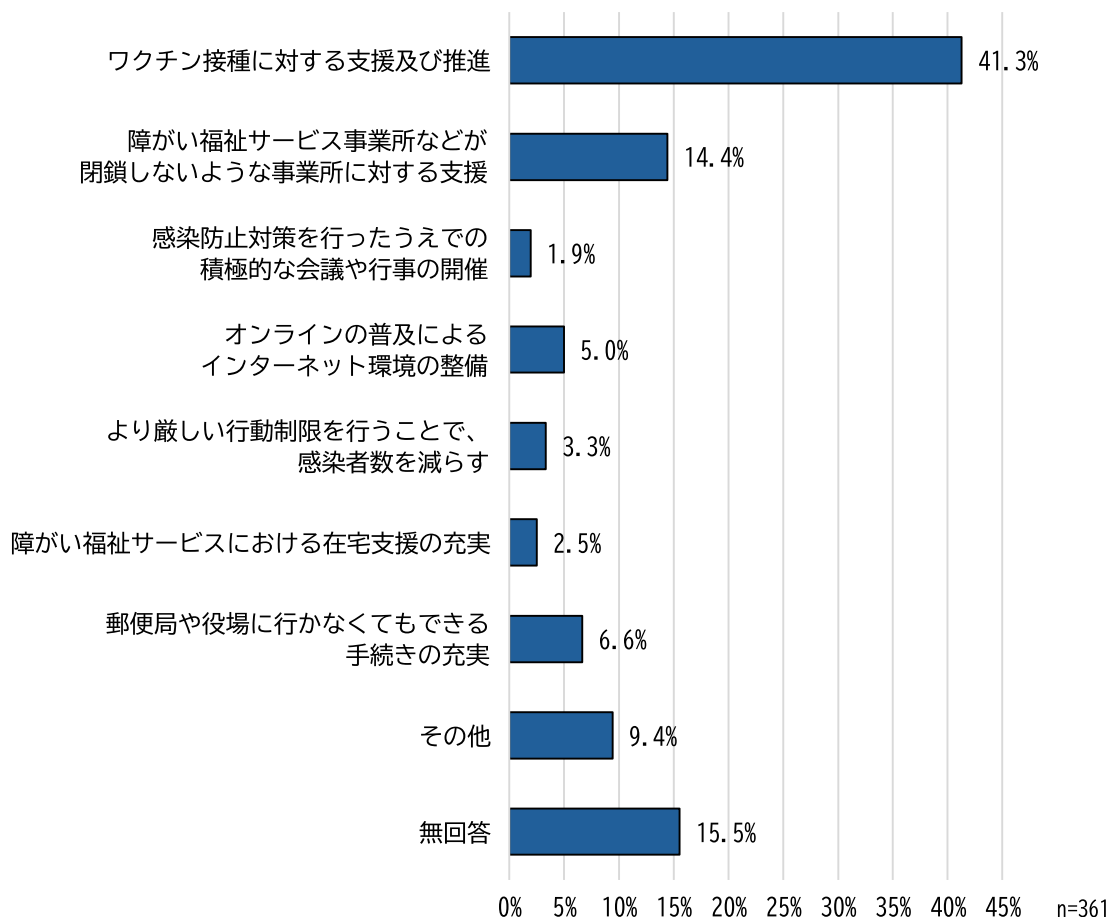
「権利擁護について」 結果からの考察

- 「障害者差別解消法」「合理的配慮」「障害者虐待防止法」のいずれも、「名前も内容も知らない」が6～7割を占めており、権利擁護に関わる法制度等の周知が必要です。
- 差別を受けたり見聞きしたりした経験がある人は、7.2%、虐待を受けたり見聞きしたりした経験がある人は 3.6%と少数にとどまっているものの、その内容は差別的言動(57.7%)や侮辱的な言葉(69.2%)など言葉によるものが多くを占めています。
- 「成年後見制度」については認知度が26.9%とやや高く、現在利用している方が6.9%、今後の利用を考えている方が16.6%となっており、潜在的な利用ニーズがうかがえます。
- 今後は、法制度や合理的配慮に関する啓発・周知を強化するとともに、差別や虐待を受けた際に安心して相談できる窓口の明確化と、成年後見制度などの支援体制の充実が求められます。

感染症の対策について

問 55 今後、新型コロナウイルス感染症をはじめ、新たな感染症の対策として必要だと思うことは何ですか。
(○は1つのみ)

「ワクチン接種に対する支援及び推進」が 41.3%でもっとも多く、次いで「障がい福祉サービス事業所などが閉鎖しないような事業所に対する支援」が 14.4%、「郵便局や役場に行かなくてもできる手続きの充実」が 6.6%の順になっています。



「感染症の対策について」 結果からの考察

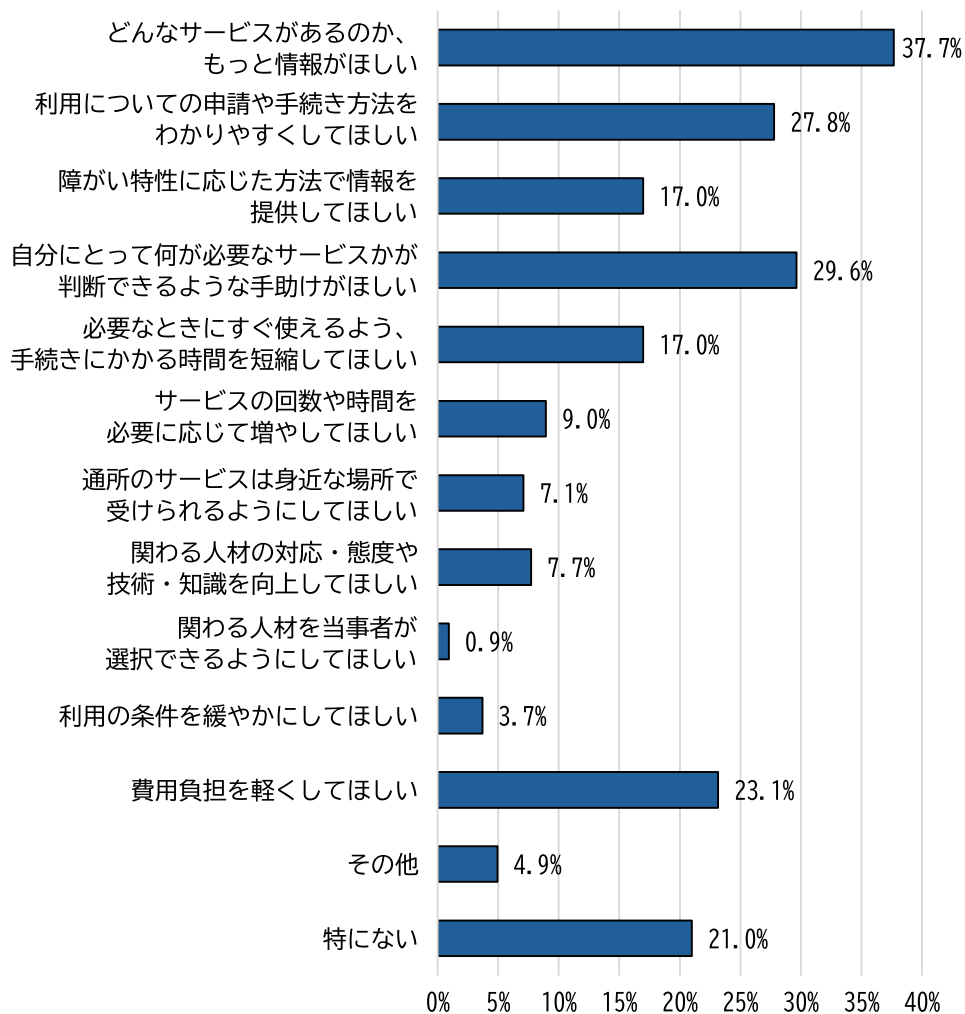
- 新たな感染症対策として必要なこととしては、「ワクチン接種に対する支援及び推進」が 41.3%ともっとも多く、感染症予防の中核となるワクチン接種への期待が大きいことがわかります。次いで「障がい福祉サービス事業所などが閉鎖しないような事業所に対する支援」が 14.4%となっており、サービスを継続的に利用できる環境の維持が重視されています。また、「郵便局や役場に行かなくてもできる手続きの充実」(6.6%)といった非対面・オンラインでの手続き整備への要望も挙げられました。
- 今後は、ワクチン接種への支援強化に加え、感染症拡大時にも障がい福祉サービスを継続して提供できる体制の確保と、外出が困難な状況でも各種手続きが行える環境整備を進めていくことが必要です。

今後の取組について

問 56 障がい福祉サービスをより利用しやすくするために、今後あなたが希望することは何ですか。

(○は3つまで)

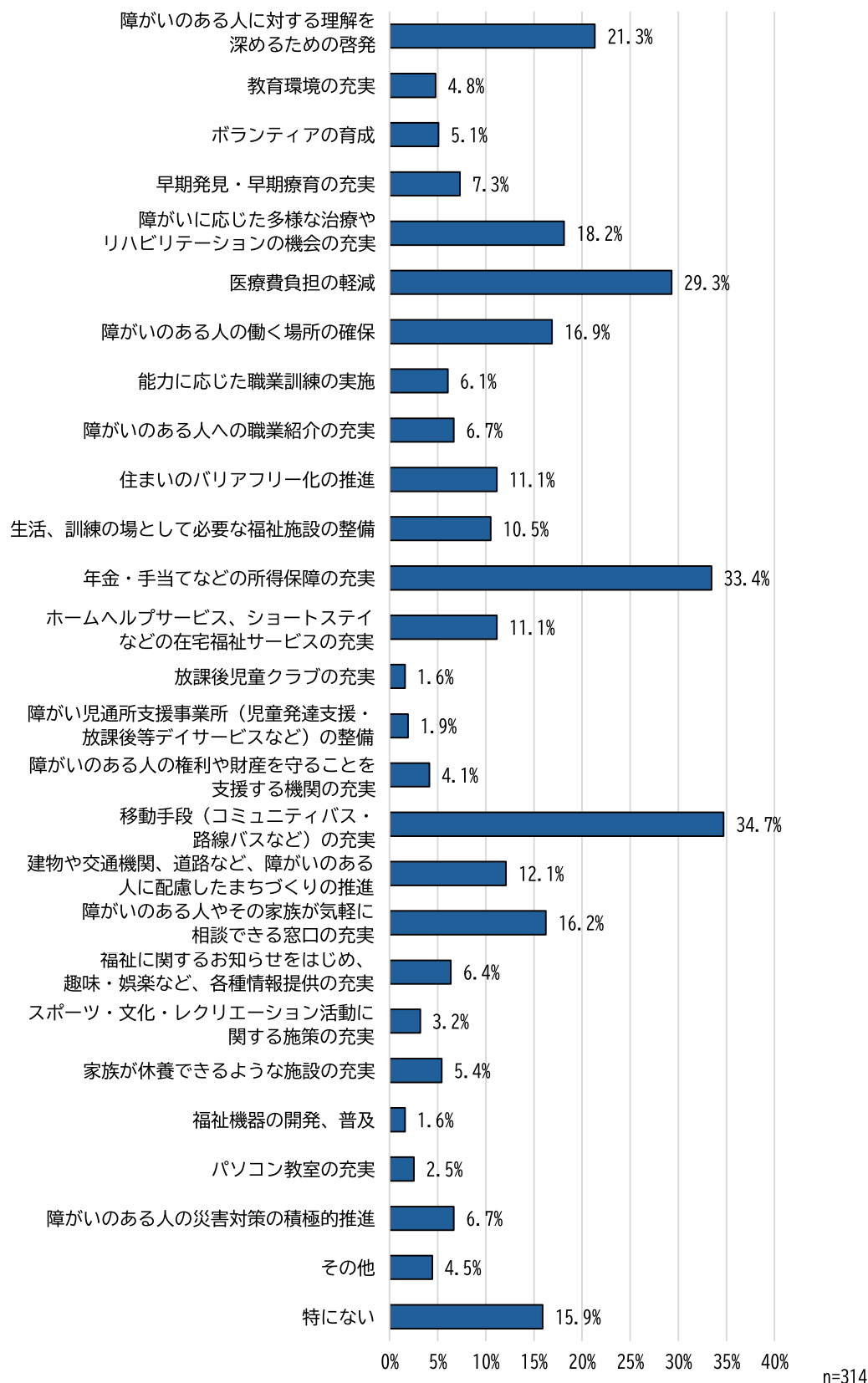
「どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい」が 37.7%でもっとも多く、次いで「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい」が 29.6%、「利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい」が 27.8%の順になっています。



n=324

問 57 今後、能勢町に障がい福祉分野のどのようなことに力を入れてほしいですか。(〇は5つまで)

「移動手段(コミュニティバス・路線バスなど)の充実」が 34.7%でもっとも多く、次いで「年金・手当てなどの所得保障の充実」が 33.4%、「医療費負担の軽減」が 29.3%の順になっています。



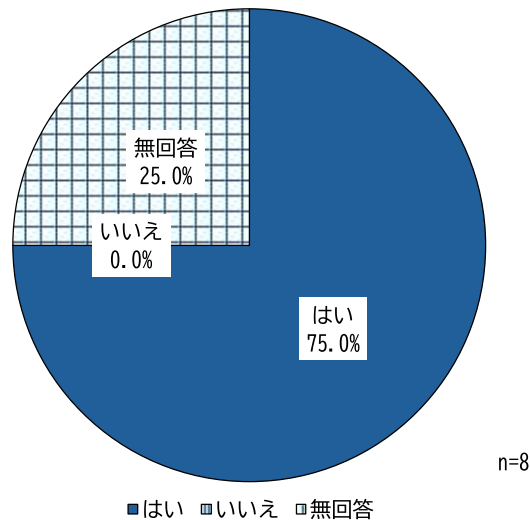
「今後の取り組みについて」 結果からの考察

- 障がい福祉サービスをより利用しやすくするために希望することとしては、「どんなサービスがあるのか、もっと情報がほしい」が 37.7%と最も多く、次いで「自分にとって何が必要なサービスかが判断できるような手助けがほしい」が 29.6%、「利用についての申請や手続き方法をわかりやすくしてほしい」が 27.8%となっており、情報提供や手続きの簡素化に関するニーズが高いことがわかります。
- 今後能勢町に力を入れてほしい分野としては、「移動手段(コミュニティバス・路線バスなど)の充実」が 34.7%と最も多く、次いで「年金・手当などの所得保障の充実」が 33.4%、「医療費負担の軽減」が 29.3%となっており、問 18 の外出時の困りごと(公共交通機関が少ない 45.2%)や問9の収入状況とも整合する結果となりました。
- 中山間地域である能勢町においては、移動手段の確保が日常生活・通院・就労のすべての基盤となっており、経済的負担の軽減と併せて、最優先で取り組むべき施策であることが示唆されます。

就園・就学について

問 58 あなたは、児童発達支援施設・幼稚園・保育所・学校に通っていますか。(○は1つのみ)

「はい」が75.0%で、「いいえ」の回答はありませんでした。

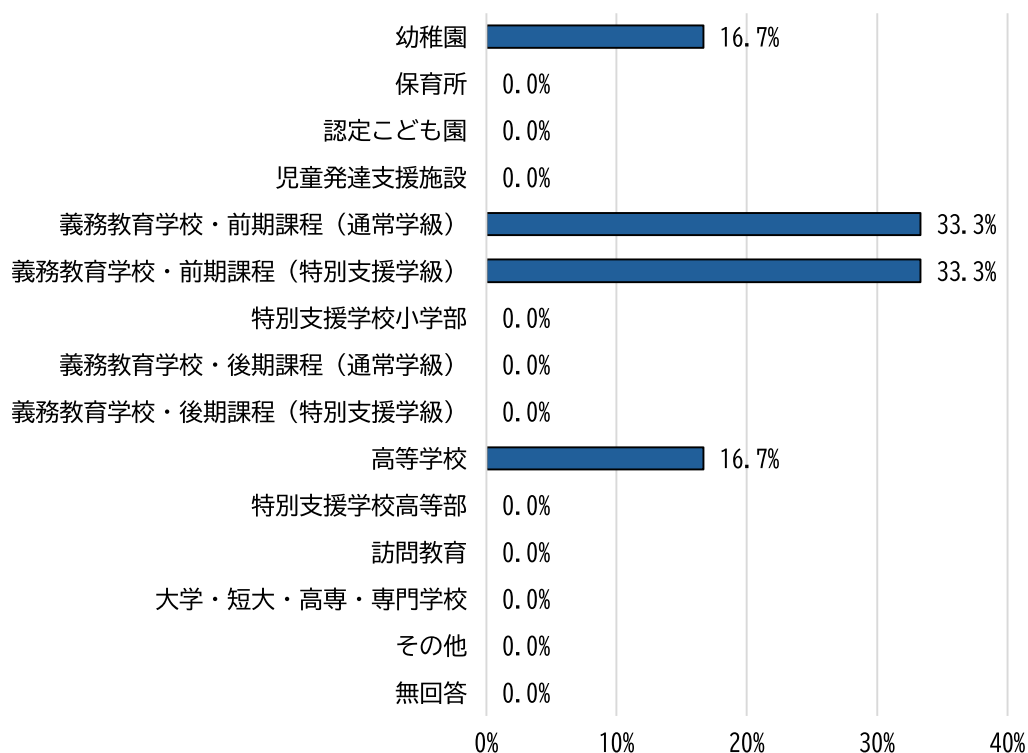


※問2「あなたの年齢をお答えください。」において、18歳未満と回答した人を分母として算出

問 58-1 問 58 で「はい」を選んだ方のみお答えください。

通われているところはどちらですか。(○は1つのみ)

「義務教育学校・前期課程(通常学級)」「義務教育学校・前期課程(特別支援学級)」が共に 33.3%、「幼稚園」「高等学校」が共に 16.7%となっています。

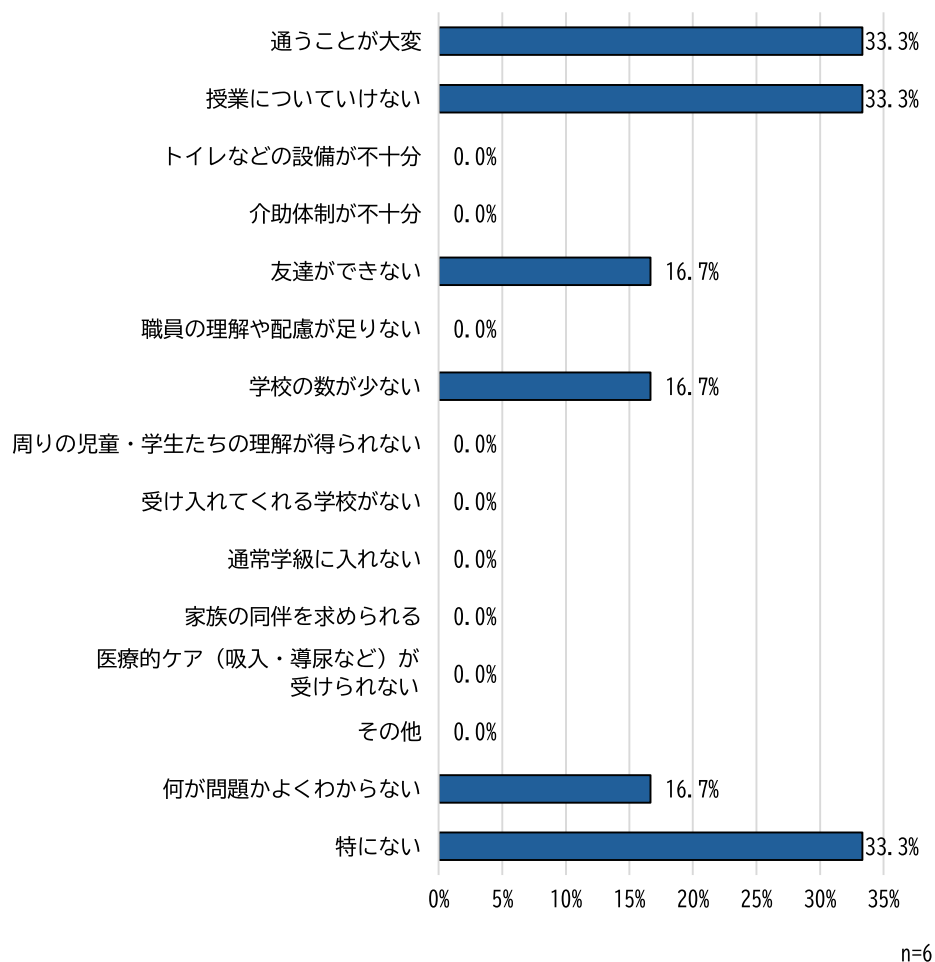


問 58-2 問 58 で「はい」を選んだ方のみお答えください。

通園・通学上の問題点をお聞かせください。（あてはまるものすべてに○）

「通うことが大変」「授業についていけない」が共に 33.3%でもっとも多く、次いで「友達ができない」「学校の数が少ない」「何が問題かよくわからない」がいずれも 16.7%となっています。

「特にない」が 33.3%となっています。

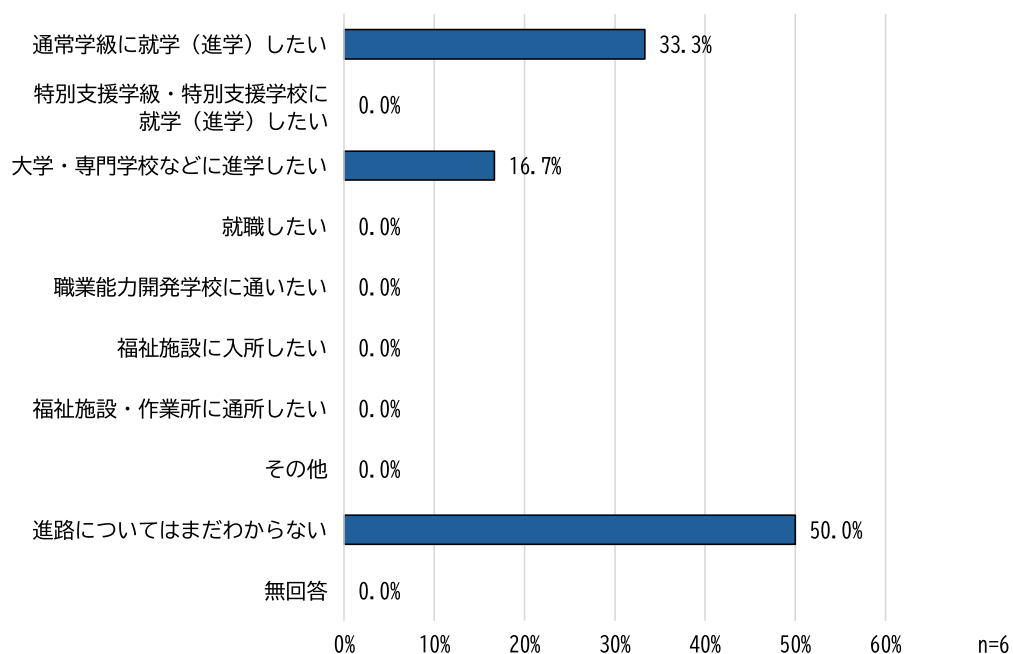


問 58-3 問 58 で「はい」を選んだ方のみお答えください。

卒業(園)後の進路はどう考えていますか。(○は1つのみ)

「通常学級に就学(進学)したい」が 33.3%、「大学・専門学校などに進学したい」が 16.7%となっています。

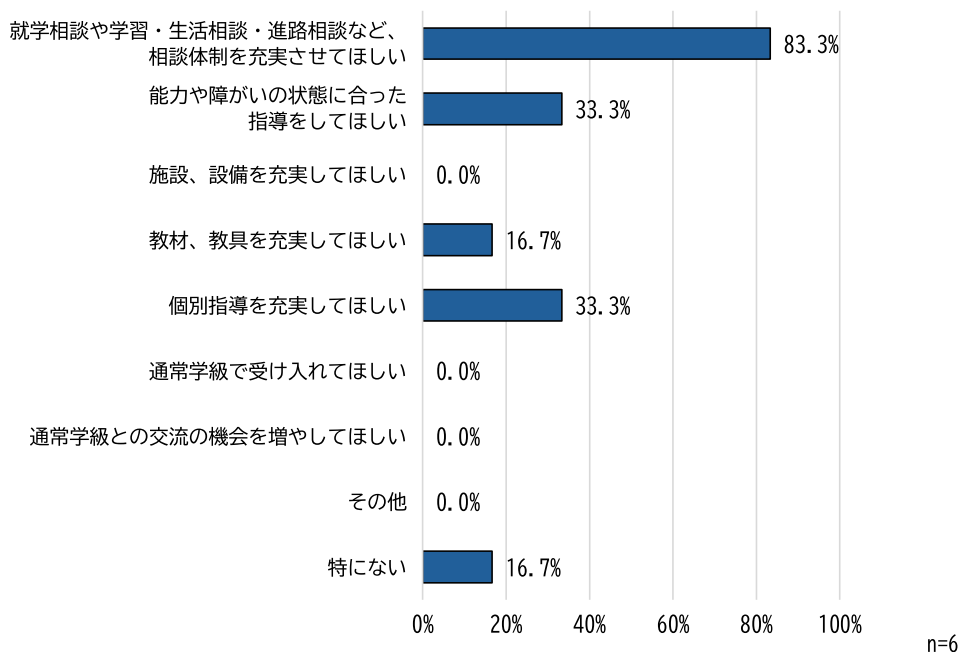
「進路についてはまだわからない」が 50.0%となっています。



問 58-4 問 58 で「はい」を選んだ方のみお答えください。

学校教育に望むことはどのようなことですか。(あてはまるものすべてに○)

「就学相談や学習・生活相談・進路相談など、相談体制を充実させてほしい」が 83.3%でもっとも多く、次いで「能力や障がいの状態に合った指導をしてほしい」「個別指導を充実してほしい」が共に 33.3%、「教材、教具を充実してほしい」が 16.7%となっています。



「就園・就学について」 結果からの考察

- 就園・就学に関する設問は対象者が限定されており、回答数は6～8名と少数であるため、結果の解釈には注意が必要ですが、傾向としては以下の点が読み取れます。
- 児童発達支援施設・幼稚園・保育所・学校に通っている方は 75.0%であり、通学先は「義務教育学校・前期課程(通常学級)」と「義務教育学校・前期課程(特別支援学級)」が共に 33.3%を占め、町内の義務教育学校が障がいのある児童・生徒の受け皿として中心的な役割を担っていることがわかります。
- 通園・通学上の問題点としては、「通うことが大変」「授業についていけない」が共に 33.3%となっており、中山間地域特有の通学距離・交通手段の課題に加え、学習面での個別支援ニーズの存在が示唆されます。
- 卒業後の進路については「進路についてはまだわからない」が 50.0%と最も多く、保護者・本人ともに進路選択に関する情報や相談支援を必要としていることがうかがえます。
- 学校教育に望むこととしては、「就学相談や学習・生活相談・進路相談など、相談体制を充実させてほしい」が 83.3%と突出して高く、次いで「能力や障がいの状態に合った指導をしてほしい」「個別指導を充実してほしい」が共に 33.3%となっています。回答数は少ないものの、就学前から卒業後の進路までを切れ目なく支援する一貫した相談体制の構築と、個々の障がい特性に応じた個別指導の充実が、就園・就学期の障がい児とその家族にとっての最重要ニーズであることが明確に示されました。

問 59 この調査を通じて、選択肢を選ぶ設問の回答だけでは表現しきれなかったことや、ご意見、ご要望がありましたら、ご自由にお書きください。

自由記述回答について、内容を以下のカテゴリーに分類しました。複数の論点を含む回答については、主たる内容に基づいて分類しています。

カテゴリー	件数	主な意見の要約
アンケート自体への意見	20 件	設問数が多く長すぎて回答が困難、専門用語や難しい言葉が多くわかりにくい、設問の意図や調査結果の活用先が不明、対象者が限定的で答えづらい、選択肢が不適切等、アンケート設計そのものに関する指摘。
交通・移動手段	5 件	公共交通機関の便数が少なく通院や買い物が困難、運転免許返納後の移動手段確保、障がい者向け定期券・乗車券制度の充実、外出支援サービスへの要望等。
情報提供・相談体制	6 件	福祉用具や便利グッズの情報提供、わかりやすい制度説明、相談窓口の周知、便利グッズ展示会の開催希望、サービス内容の見える化等。
就労支援	3 件	町内における就労場所の確保、精神障がい者にも働きやすい職場環境の整備、就労継続支援 A 型・B 型事業所の充実への要望等。
経済的支援・年金	5 件	障害年金制度の充実、高額医療費負担の軽減、税・国民健康保険料の減免拡充、医療費自己負担への支援強化等。
災害・緊急時対応	3 件	緊急時の通信手段確保、聴覚障がい者等向け通報システムの整備、生活道路の側溝事故予防など、災害・緊急時の安全確保への要望。
将来・老後への不安	6 件	ひとり暮らしになった場合の不安、介護者（親）の高齢化への懸念、配偶者亡き後の生活、本人亡き後の家族支援、終末期医療・看取り等への不安。
行政・福祉サービスへの感謝	6 件	町職員の親切な対応、能勢町のきめ細かな福祉サービスへの感謝、現状のサービスに満足している旨の声等、肯定的評価。
行政・福祉サービスへの苦言	2 件	窓口対応や職員対応の改善を求める意見、傷害等級認定への不満、行政サービス運営面への指摘。
まちづくり・地域問題	5 件	高齢化対応、空き家活用、民生委員による見回り強化、地域住民同士の支え合い、過疎化への対応等、まちづくり全般に関する意見。
差別・障害理解	3 件	障がいに対する地域住民の理解促進、合理的配慮の意味の周知、差別解消への啓発活動の充実への要望等。

自由意見 結果からの考察

- 自由記述全体を概観すると、アンケートそのものについて設問数の多さや専門用語の難しさなど、回答者負担が大きいという意見が多数ありました。
- 次いで、将来・老後への不安、情報提供・相談体制、行政サービスへの感謝の声が多く寄せられています。長期的な生活見通しへの不安と、より分かりやすい情報提供への期待が大きいです。
- 今後の施策展開にあたっては、これらの意見を踏まえ、当事者目線での情報発信、ライフステージに応じた切れ目のない支援、そして交通・経済・災害対応など生活基盤全般の充実が求められています。